

甲府城の石垣の多様性を考える

山梨県埋蔵文化財センター 久保田健太郎

本報告は、下記の検討を基にしている。

久保田健太郎 2016a 「甲府城の野面積み石垣における石積み工程」研究紀要 32, 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター, 山梨, pp. 57-64

久保田健太郎 2016b 「甲府城における野面積み石垣の勾配と輪取り」山梨県考古学協会誌 24, 山梨, pp. 105-116

1. 甲府城野面積み石垣に共通する特徴

- ・近世城郭の初期の石垣構築技術を知ることのできる貴重な遺構が、全国事例からみても稀有なほど良好に残っている。
- ・例えば、隅角部では、算木積みの順序が乱れることや、縦長の石材などが用いられる点に初原的な特徴がみられる。
- ・石材は近傍で入手可能な安山岩が用いられる。

2. 甲府城野面積み石垣の多様性

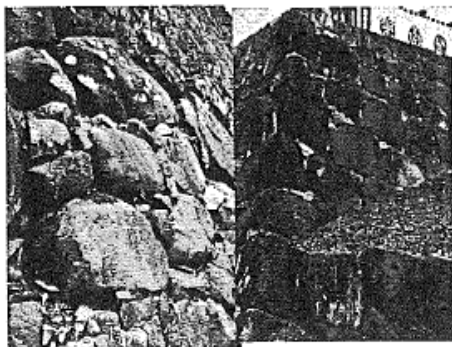
- ・甲府城の野面積み石垣は、どの石垣も近世城郭初期の石積みの特徴をよくみることができる一方で、1面1面の石垣面を比較していくと、それぞれに個性が認められる。

例えば…

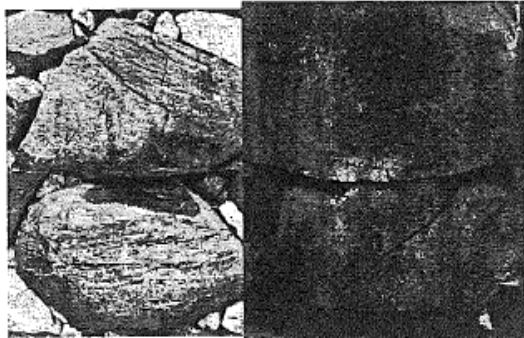
「築石の形状や大きさの違い」「石質の違い」「意匠的な石材配置の有無」

「勾配角度の違い」「反りの形状の違い」…など

- これらの特徴の違いが生じる背景には、「構築の時間差や担当した技能者の違い」「地点による石材供給のあり方の違い」「象徴空間演出の必要性の有無」など、甲府城の石垣の成り立ちを理解する上で不可欠の検討課題が隠されている。



左：丸い石材、右：角張った石材



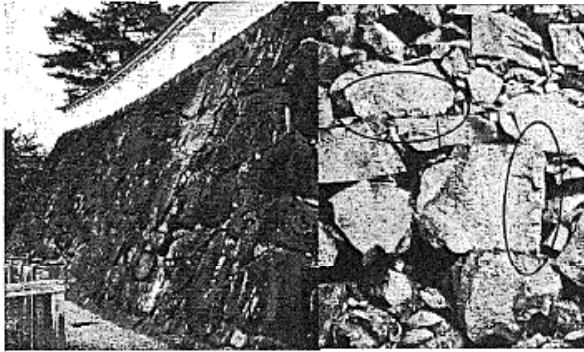
左：表面に皺のある石材、右：皺のない石材



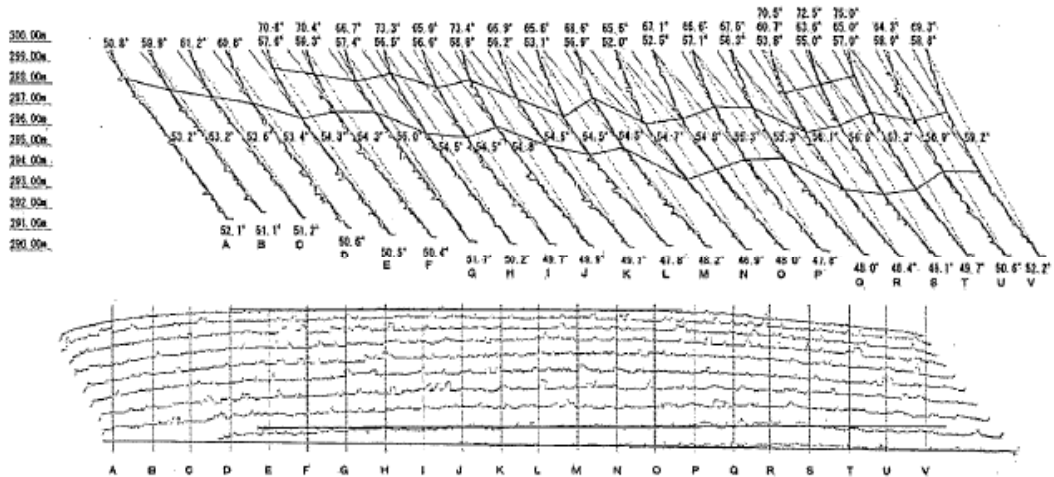
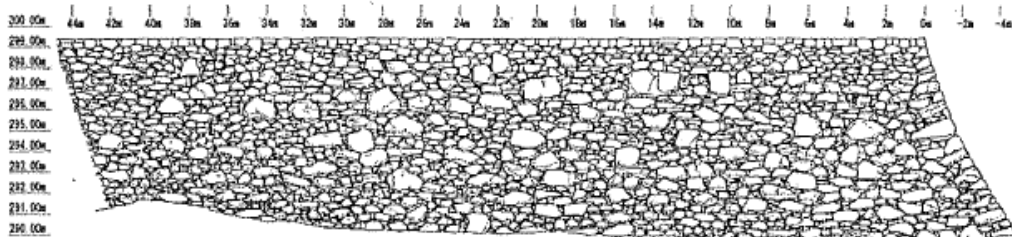
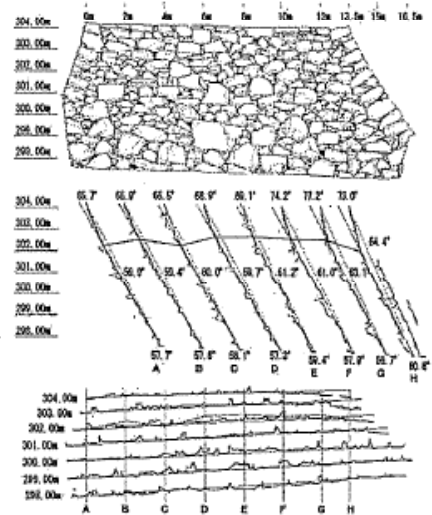
比較的小さな築石で構成される石垣



意匠的石材配置の石垣



左：矢穴割りの稀な石垣 右：矢穴割りを多用する石垣



右上：勾配の折れる高さが一定、直上：勾配の折れる高さが変動し襷掛け状となる

3. 何が多様性を生み出しているのか

・いくつかの要因が関係しあって表出した現象だと思われる。

そのため、単純に石垣を面ごとに分類・比較しても答えは導きけないだろう。

→ 各面で変位する要素を抽出し、その要素が各面で変位する要因を検討する

・久保田 2016a では、築石表面の調整剥離に注目し、石垣によって、なぜ特定の特徴をもつ調整剥離が集中するのかについて考察した。

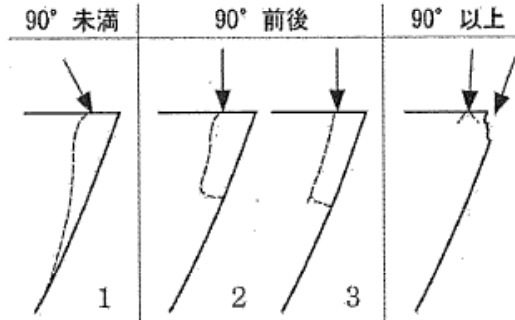


A: 打点直下に砕けのない剥離面



B: 打点直下に砕けを有する剥離面

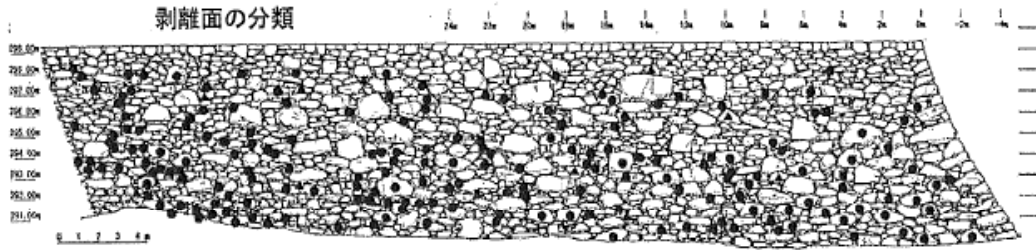
剥離面の分類



末端形状の種類 1. フェザーフラクチャー
2. ヒンジフラクチャー
3. ステップフラクチャー

打撃角度と剥片形成 (Whittaker1994:97 を基に作成)

Whittaker, John C. 1994 *Flintknapping: Making & Understanding Stone Tools*, University of Texas



本丸南面石垣(H-60)



板下門跡西面石垣(N-34)

- ... 築石上面を打面として石面を打割ったもの (106, 5)
 - ... 築石下面を打面として石面を打割ったもの (7, 4)
 - ◆ ... 築石側面を打面として石面を打割ったもの (1, 1)
 - ▼ ... 石面を打面として築石側面を打割ったもの (0, 1)
 - ▲ ... 石面を打面として築石下面を打割ったもの (11, 5)
- ※ 括弧内は、左がH-60石垣における数、右がN-34石垣における数

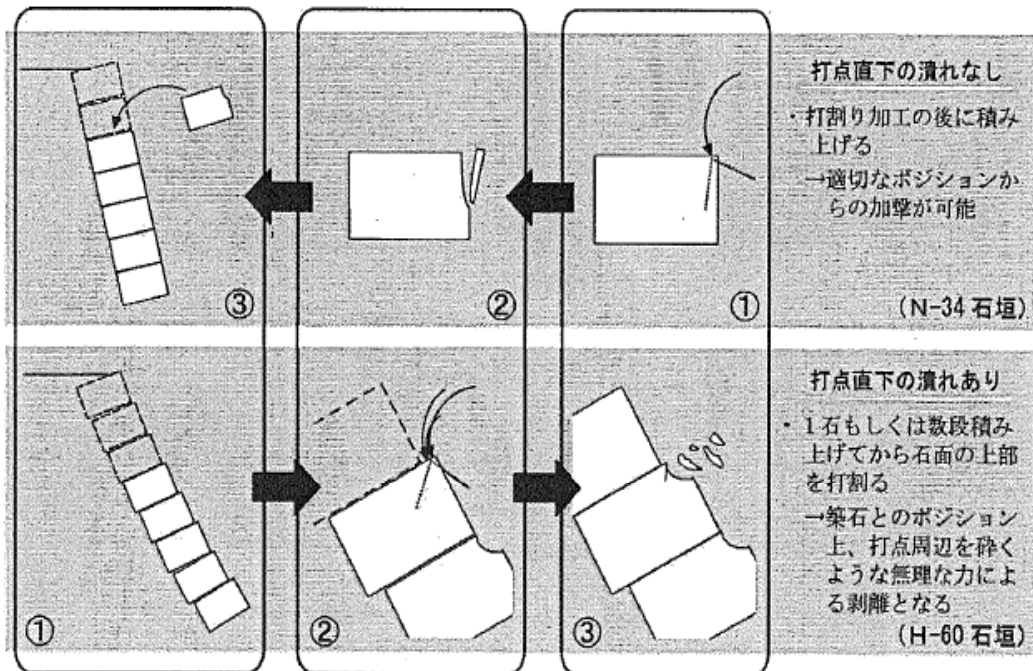
築石に対する打割り方向

(1) 方法

- ・打点付近が破碎した剥離面をもつ築石が多い場合、打撃角度が鈍角になる姿勢を想定。
それに対し、打点付近の破碎を伴わない剥離が連続するものについては適切なポジションから打撃することのできる姿勢を想定。
 - 前者は打撃角度が鈍角になりやすい「築石積み上げ後の調整剥離」、後者は適切な角度からの打撃が可能な「積み上げ前の調整剥離」であるとする仮説を設定。
 - この仮説を検証する
- ・検討対象には上記の課題を最も検討し易い石垣を選出した。(N-34 石垣、H-60 石垣)
- ・仮説検証方法は、築石に対する剥離の位置と方向に注目した。
 - 石面に対して上から下にむけて剥離されたものは積み上げ後でも打撃可能だが、それ以外（例えば石面に対して下から上、築石側面から石面への剥離など）は築石積み上げ前でないと打撃できない。
 - 前者には打点付近の破碎が多くみられる傾向があると思われる

(2) 結論

- ・H-60 石垣では石面に対して上から下へ向けた剥離が圧倒的多数を占める。また打点付近に破碎を伴う剥離面がやはり圧倒的に多い傾向がみられる。
- ・一方、N-34 石垣では多様な方向への剥離がみられる。また打点付近の破碎は圧倒的に少ない。
 - H-60 石垣は築石積み上げ後（1段か、場合によっては数段）に石面の調整剥離が施されたことを想定。N-34 は築石に対して積み上げ前に調整剥離をしている可能性を想定。
- ・今後、2つの石積み工程モデルが、甲府城の他の石垣にどのように表れるか検証する必要がある。



2種類の剥離面が形成される要因